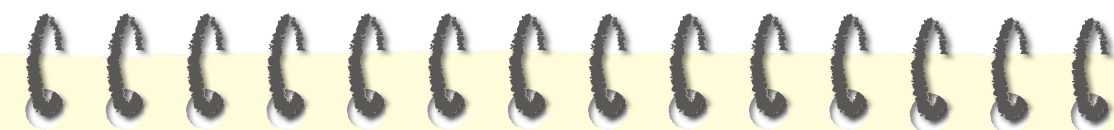




22歳でスモン病を発症。4つの病院で15年間入院生活を送られました。スモン病の後遺症による下肢麻痺、視力障害のために車いす生活となり、さらに全身の痛みで終日耐えられています。

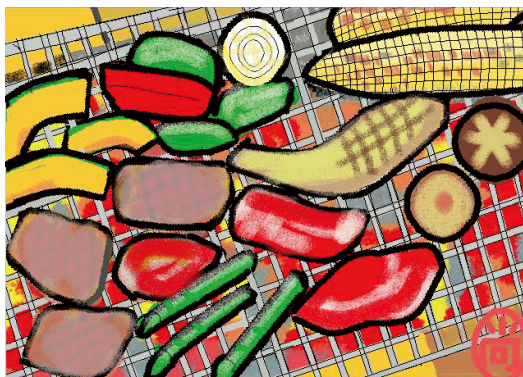
現在、痛みを忘れるほど熱中しているのが折り紙です。2年前に開始した訪問リハビリテーションで、巧緻動作訓練の一環として楽しみながらできる折り紙を導入しました。視力障害のためほとんど見えませんが、セラピストの見本を元に指でなぞり、指の感覚で理解し折り方をマスターされました。キャラクターや花などの作品に取り組み、完成したらディケアの友だちにプレゼントして喜ばれているそうです。

今回の鶴はご本人の得意な作品の1つです。平和の象徴とされる鶴が1つの輪になることで世界が平和になるといいな、との思いが込められています（担当OT：米村真砂美）。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



森本尚弘「バーベキュー」

小学生のころにバーベキューをやって、お肉が美味しかったことを思い出しながら描きました。網目を細かくするところや炭火をぼかすところにこだわって、より本物っぽく見せるようにしました。（森本尚弘）

森本さんはデュシェンヌ型筋ジストロフィーです。終日人工呼吸器をつけ、ベッド上で過ごされています。現在は口唇の動きを利用したポイントタッチセンサーとパソコンのお絵かきソフトを使用して、季節ごとの絵を描いています。絵を描くことで家族やスタッフ、他患者様とのつながりも増えており、楽しみの一つになっています。（担当OT：宮本美樹）